

遠隔期にペルテス病を併発した川崎病の2例  
(分担研究：川崎病心血管後遺症の追跡、管理に関する研究)

加藤 裕久, 井上 治, 井上 明夫\*

**要約** 川崎病の遠隔期にペルテス病を併発した2例を経験したので報告した。川崎病の血管炎とペルテス病発症とのあいだになんらかの関与が考えられた。川崎病ではペルテス病変化に留意する必要がある。

**見出し語：**川崎病, ペルテス病

**目的** 川崎病における骨関節病変は関節の疼痛、腫張が診断の手引きの参考条項に記載されており、ときに認められるが骨病変はまれであり、ペルテス病の報告も過去にひとつみられるのみである。川崎病の遠隔期にペルテス病を併発した2例を経験したので報告する。

**症例** 症例1は10歳男児、7カ月時に川崎病に罹患、アスピリンにて加療、冠動脈病変を合併せずに軽快した。川崎病発症4年10カ月後頃より左股関節の運動時疼痛および跛行を認め、整形外科を受診しペルテス病の診断を受ける。

川崎病急性期の所見は診断の手引きの6症状をすべて認め典型的な病型であったが、発熱は8日間、その他の臨床症状や検査所見からは重症川崎病とは考えられなかった。浅井、草川のスコアは4点であった。

左股関節レントゲン像の経時的変化を図1に示す。図1-Aは整形外科初診時の所見である。関節裂隙の拡大、大腿骨骨頭の扁平化が認められる。

初診時以後コルセットを装着し加療していたが、ペルテス病発症11カ月には病変はosteoporoticな所見へと進行していた(図1-B)。その後自覚症状は徐々に消失し、股関節所見も改善の傾向にあるが、その変化は残存している(図1-C)。

症例2は7歳男児、2歳11カ月時に川崎病に罹患しアスピリンの投与を受ける。急性期直後の冠動脈造影にて右冠動脈起始部に小動脈瘤と左冠動脈主幹部に軽度拡張を認めたためアスピリンの少量投与を続けた。1年後の再造影では冠動脈病変は消退していた。川崎病発症3年9カ月頃より跛行や右股関節の運動時疼痛を認め、股関節レントゲン所見よりペルテス病の診断を受ける。

川崎病急性期に頸部リンパ節腫張は認めなかったが、診断の手引きの5症状を満足、発熱が12日間と遷延したものの、浅井、草川のスコアは4点であり重症感は伴わなかった。

股関節レントゲン所見では右股関節の関節裂隙の拡大や大腿骨骨頭の扁平化が認められる(図2-A)。

久留米大学小児科 (Dept. of Pediatrics, Kurume Univ.)

\*久留米大学整形外科 (Dept. of Orthopedics, Kurume Univ.)

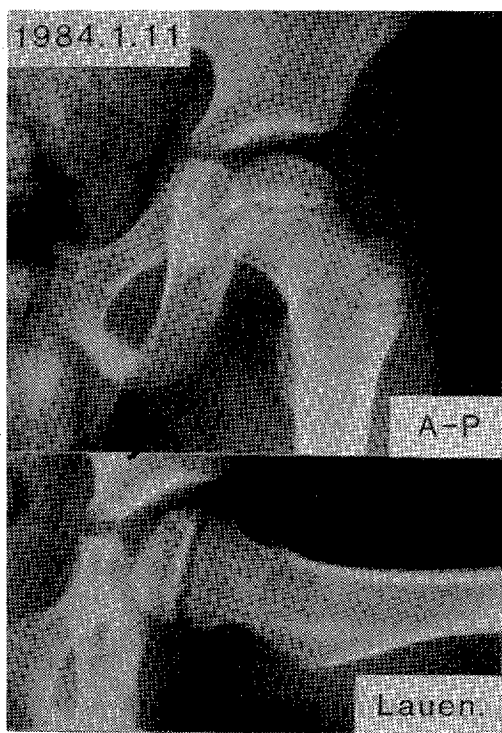


图1-A

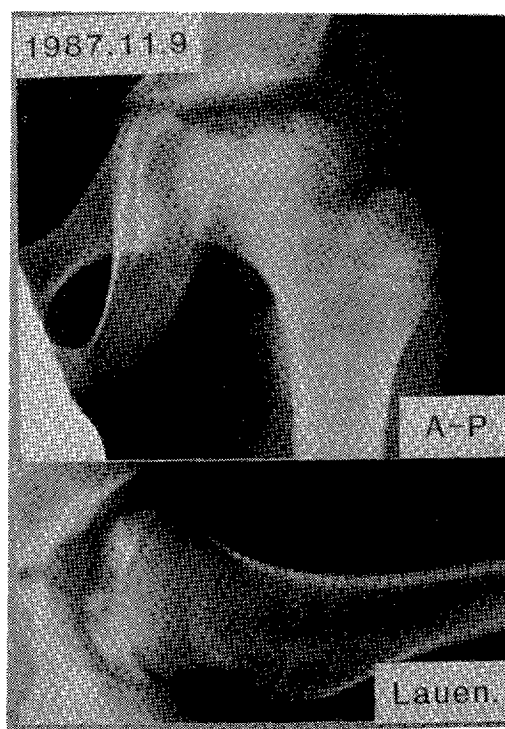


图1-C

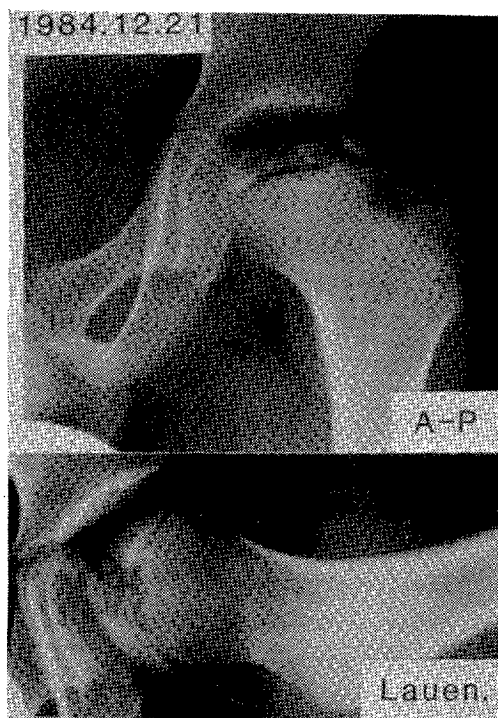


图1-B

コルセット装着にて経過観察したが、病変は進行し osteoprotic な所見が認められる (図2-B)。現在自覚症状は消失しているが、股関節レントゲ

ン所見からは改善の傾向は認められない (図2-C)。

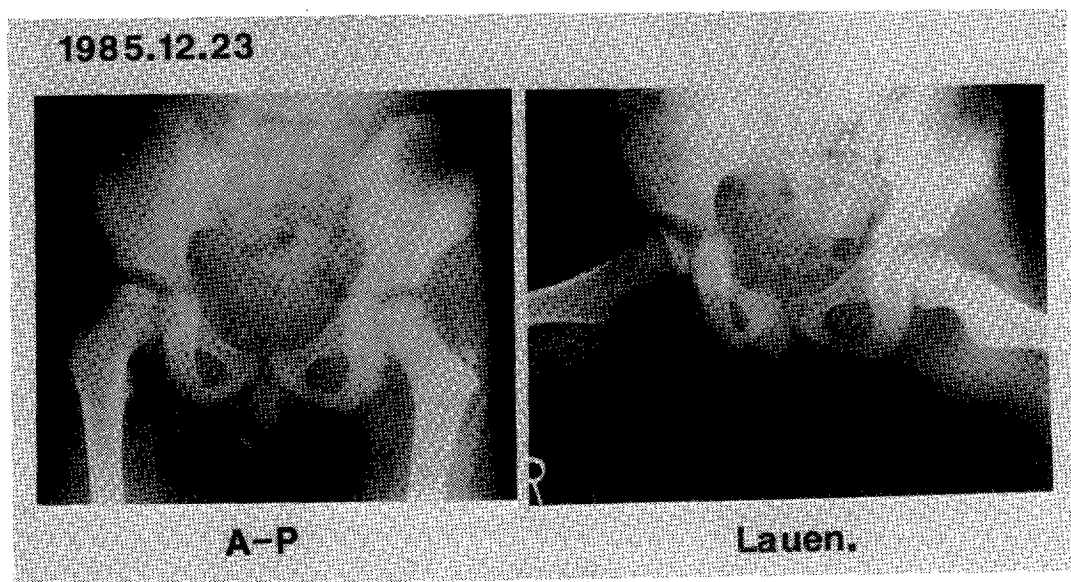


図2-A

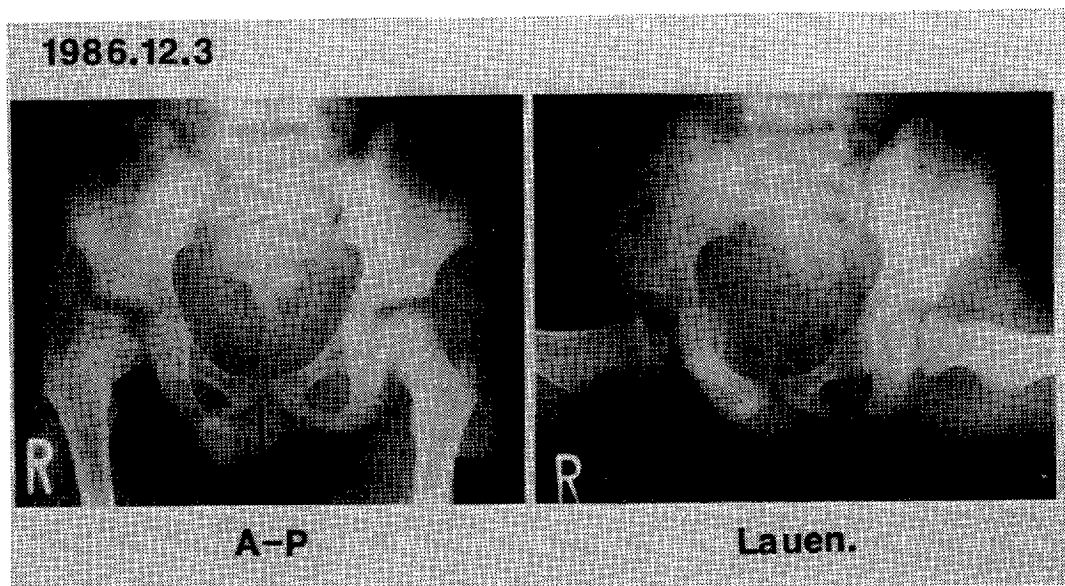


図2-B

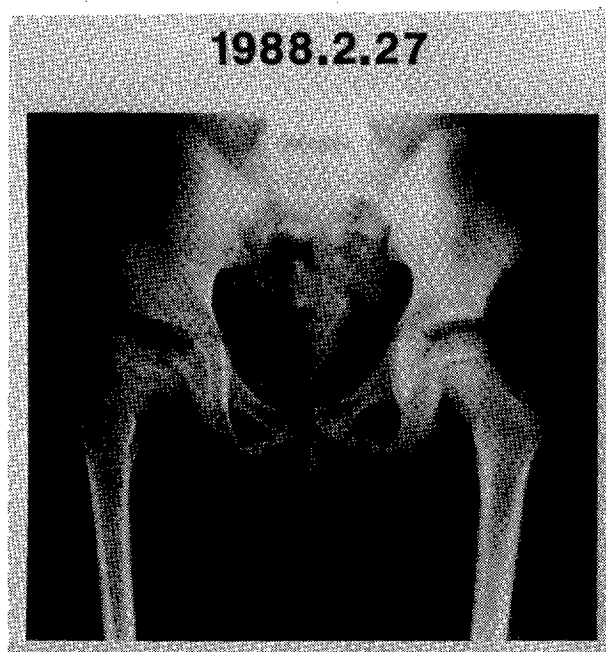


図2-C

**考察** 川崎病は原因不明の疾患であるが、その本態は全身の中小動脈における血管炎であるとされている<sup>1)</sup>。一方ペルテス病も小児期における原因不明の股関節疾患であるが、可能性として発育障害、外傷、内分泌、血管炎や機械的狭窄による血行障害説などがある<sup>2)</sup>。また全身性エリテマトーデスを主とした膠原病に同様な変化を生じてくること、特にステロイド剤の投与はそれを助長することが知られている。今回の2症例ではステロイド剤投与の既往はない。これまで川崎病に合併したペルテス病の報告は山本らの報告<sup>3)</sup>をはじめ数例しかなくまれなものと考えられる<sup>4)</sup>。この2例のペルテス病が川崎病の血管炎により発症したのであれば、急性期または遠隔期早期に発症せず、長期遠隔期に発症したという疑問点があり、また股関節周囲の血管病変に関する精査は行っていないが、これまでに経験した川崎病1113例中2例にペルテス病を認めたことは、一般小児における

ペルテス病の罹患率に比べると高く、この両者の間になんらかの関与の可能性が考えられた。したがって川崎病既往児において股関節の疼痛などの訴えがある例についてはペルテス病の可能性を考慮する必要がある。

#### 文 献

- 1) 濱島義博：川崎病：日病会誌，66，59，1977
- 2) 西尾篤人：骨端症および骨端線障害：新小児医学体系，34A 小児整形外科学，57，中山書店，東京，1984
- 3) 山本高治郎ほか：Legg-Calve-Perthes 病様変化を示した川崎病（MCLS）の一症例：川崎病研究のあゆみ，168，近代出版，東京，1976
- 4) 片岡正：川崎病における骨・関節症状：川崎病，161，南江堂，東京，1988

# Abstract

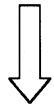
Perthes disease as a complication of Kawasaki disease:

Report of two cases.

Hirohisa Kato, Osamu Inoue, Akio Inoue\*

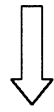
We reported two boys with Kawasaki disease, who complicated by Perthes disease, in convalescent stage of their illness. This condition may be relate with vasculitis in Kawasaki disease.

In the Follow-up of the Kawasaki disease patients, we should notice the complication of Perthes disease.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約 川崎病の遠隔期にベルテス病を併発した2例を経験したので報告した。川崎病の血管炎とベルラ病発症とのあいだになんらかの関与が考えられた。川崎病ではベルテス病変化に留意する必要がある。